

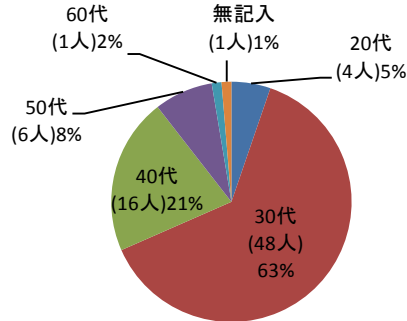
青森県保健師助産師看護師実習指導者講習会修了者の活動状況および講習会の振り返り調査(講習会修了者)

<調査対象>

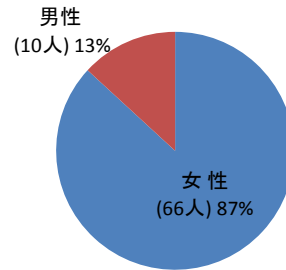
- (1) 平成25年度～29年度の青森県保健師助産師看護師実習指導者講習会の受講者(157名)
- (2) 上記が所属する施設の看護部門の長(35施設)
- (3) 養成所の実習施設で講習会の受講者がいない施設の看護部門の長(7施設)

【講習会修了者】 配布数157、回収数76、回収率48%

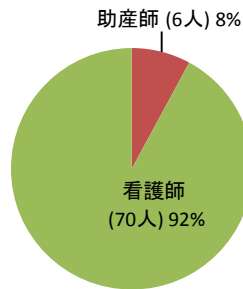
年齢



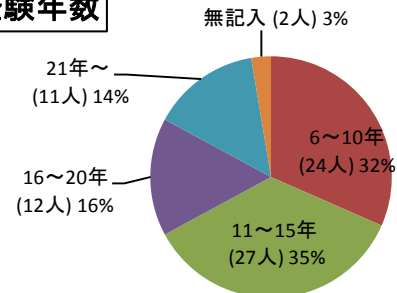
性別



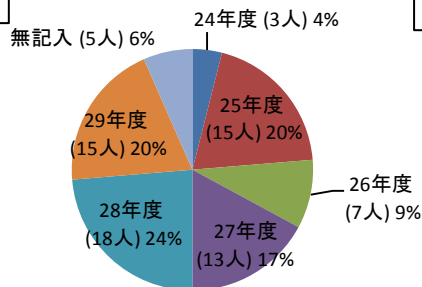
職種



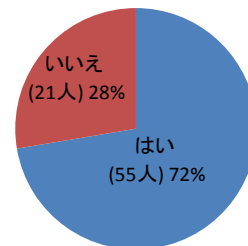
勤務経験年数



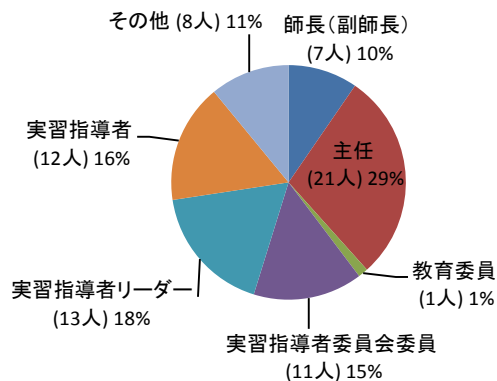
受講年度



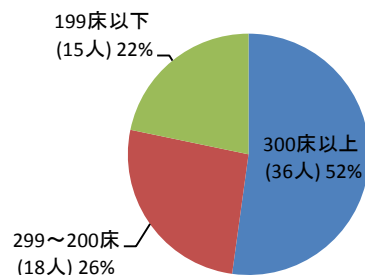
現在実習指導者として活動しているか



あなたの職位・役割

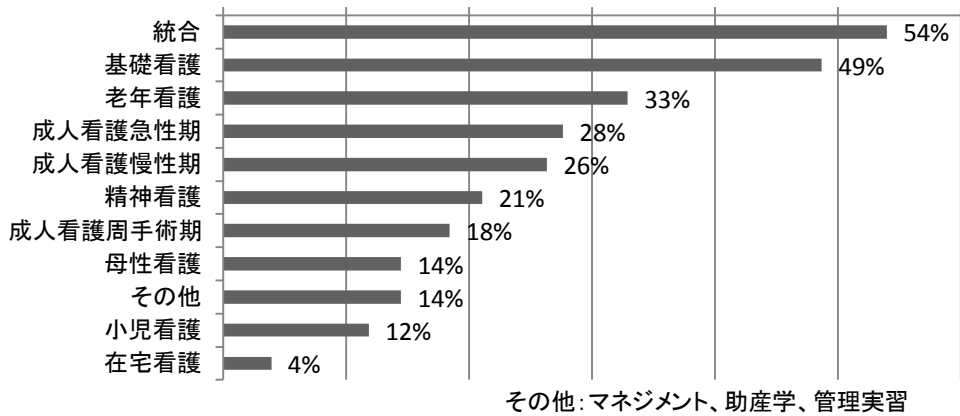


勤務施設規模

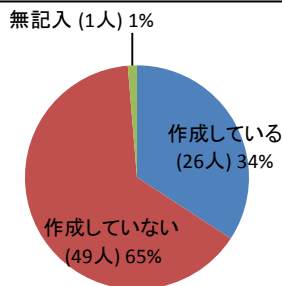


(その他) 通信課程の添削指導員、NRナース、記録委員会リーダー

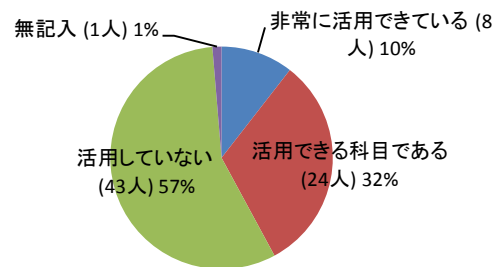
受入実習科目 (回答者数 76)



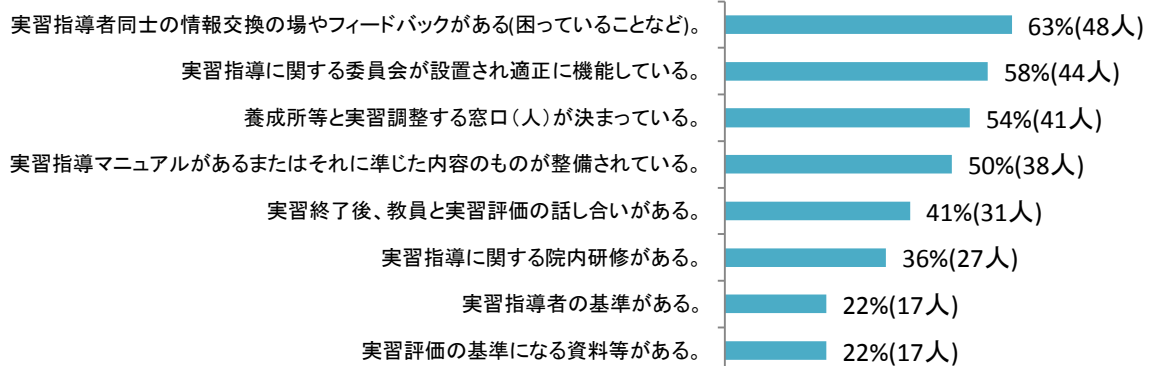
実習指導案を作成しているか



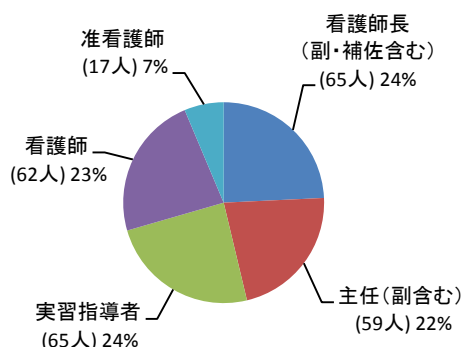
「実習指導案作成」の現場における活用



実習指導体制 (回答者76人、複数回答)

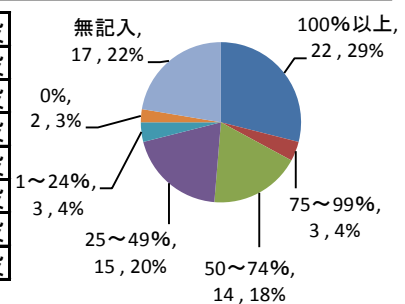


実習指導に関わる方の職位



回答者施設の実習指導者数における講習会修了者数の占める割合

100%以上	22施設
75~99%	3施設
50~74%	14施設
25~49%	15施設
1~24%	3施設
0%	2施設
無記入	17施設
計	76施設



講習会修了者の実習指導に対する考えや行動の変化

自信	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導に自信が持てるようになった。(8) ・他スタッフに学生の指導方法を自信をもって指導できるようになった。
教員との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・教員から情報収集を密にするようになった。特に学生の性格や学校での様子など。(17) ・将来教員になりたいという夢を持つことができた。 ・教員や他看護師とも個別性について話す機会が増えた。 ・教員との連携によりより学生の特徴(性格)を知ることができ、実習指導を個々に合わせてできるようになった。
評価について	<ul style="list-style-type: none"> ・実習評価の仕方が理解できた。(4) ・実習評価の仕方に自信が持てるようになった。(2) ・学生の評価、コメントをする際に学生の特徴を意識して行えている。
学生に対する姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の考えを聞いた上でのアドバイスができるようになった。(19) ・学生との接し方が変わった(ほめる)。(13) ・学生を前より気にかけるようになった。(8) ・学生に積極的に関わろうとするようになった。(7) ・若い学生の対応を知れた。(5) ・名前と顔を覚える(早い段階で)、名前で声を掛ける。(4) ・上手くできなかったところは具体的にどういう所を改善すれば良いか一緒に考えるようになった。(2) ・毎日の実習終了後には振り返りをするようになった。(2) ・実習指導に対して多方面の知識が必要とされ積極的に学生と関わる姿勢を学ぶことができた。 ・添削する際学生の立場に立って考えられるようになった。 ・学生の成長を一番に考えられるようになった。 ・実習生に多くを求めなくなった。 ・フィードバックをさせるようになった。
(学生の気持ち)	<ul style="list-style-type: none"> ・感情で指導することが少なくなり、相手の気持ちや考えを聞けるようになった。(8) ・学生の不安や緊張など精神面に配慮しながら指導にあたる。
学生の特徴理解	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の学生の特徴を知り、成長度に合わせた指導ができるようになった。(12)
病棟スタッフとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者とその他のナースの実習生に対する考え方の違いに悩むようになった。 ・職場全体で学生を受け入れる体制づくりを努力するようになった。(12) ・スタッフへの助言指導もするようになった。(6)
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導に対する具体的な指導方法を理解できた。(11) ・指導＝教育(共育)ということが分かった。 ・教えるだけでなく学生が考えるような関わり方を理解できた。(2) ・教育に関して基本から学べて何事も基本から考えるようになった。(3) ・学生に合った指導方法を考えるようになった。 ・実習要項を見て各学校の特色を理解するようになった。実習要項の大切さが分かった。(8)

	<ul style="list-style-type: none"> ・どこ(何)を大事に指導すればよいのか理解できた。 ・学生にとって実習しやすい環境を整えるよう心掛けるようになった。(4) ・学習状況を学生に確認するようになった。(2) ・学生の特性を理解し、指導の仕方が明確になった。 ・指導案の活用方法を学んだ。(7)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学生だけではなく新人指導・後輩指導にも活用できるようになった。(3) ・実習に積極的に関わろうと思った。 ・指導に興味を持てるようになった。 ・視野が広がった。 ・学生を通して、看護師の在り方を考えることが多くなり、自分に活かすよう行動できるようになった。 ・自施設での課題を整理することができた。 ・指導者としての役割が理解できた。(2) ・より指導が楽しくなった。 ・指導に対しての不安が解消できた。 ・人に教えるためには、まず自分をもっと学習していかなければと思った。(2)

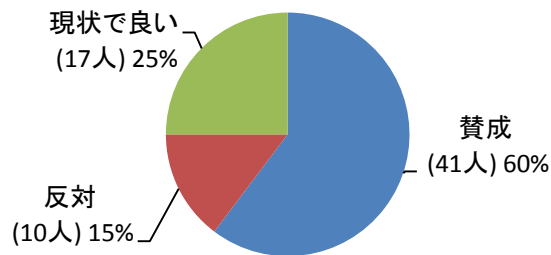
参加者が減少している要因として考えられること (回答者数76、複数回答)

長期間職場を離れるため、勤務体制上参加が難しい。	69人
現場が忙しいので参加したいができない。	39人
その他	13人
9人	自施設に講習会修了者が数人いて、実習指導者として活動し、実習指導に関して現場から講習会参加の要望がない。
8人	実習指導者として役割を担い、指導上課題を抱え講習会を受講したいと思っているが上司の協力が得られない。
5人	実習を受けている各看護単位に講習会修了者が2人以上確保され、実習指導者として活動しているので参加させる必要がない。
1人	養成所の実習を受けていないので、講習会に参加させる必要はない。

その他

- ・遠方からの参加者の交通・宿泊の負担が大きい。(2)
- ・5年目前後のナースが少ない。
- ・長期間のため子育て世代は参加が難しいと思う。
- ・講習会の内容や良さが理解されていない。(2)
- ・看護部からの実習指導者に対する圧力は強いが、頑張ったところで評価されない。
- ・参加したいと思っても、参加させてくれない。
- ・週休で参加していたのでプライベートな休みが確保できない状態だった。看護部の協力が得られないと感じた。

eラーニング活用について賛成か



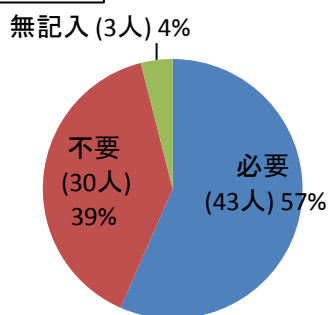
「反対」の理由

- ・ 講師の先生に直接、体験談もまじえて話を聞きたい。
- ・ 40日間集まるのは大変だが、他施設の方との意見交換はとても大切だと感じた。(2)
- ・ 仕事をしながら時間外にeランをするのは負担が大きくなるのではないか。(2)
- ・ 一人で勉強するよりも、やはり集合して勉強した方が身につく、学べると思う。(2)
- ・ eランは本当に自ら学びたいと思った人でないと難しい。上司に勧められて参加した場合は学習効果が低くなる可能性がある。
- ・ 受講しただけでOKではなく、指導案作成は必要だと思う。
- ・ パソコンなど苦手な人もいる。

「現状で良い」の理由

- ・ 通信制に関する科目はeラーニングでもよいと思うが、その他は講師の先生の生の授業の方が分かりやすいと思う。
- ・ eラーニング活用すると、遠方の方の負担は少なくなる。eラーニング活用により、自分の休みを利用しての視聴になると思うので、各自の負担が増す。どちらとも言えない。(4)
- ・ 他病院のスタッフとの情報交換もできる機会となり良かった。
- ・ 業務が忙しいので、eランを受講する時間確保が難しい。eランだと最初から最後まできちんと聞かずに終わってしまう可能性がある。それだと意味がなくなってしまうので、どうせ講習会を受けるなら実際に講義を聞いた方がよいと思う。
- ・ その人の都合で講習ができるのでよいと思う。
- ・ グループワークや意見交換が有意義であったため。(2)
- ・ eランは熱意が伝わらない。

定期的なフォローアップ研修は必要か



「必要」の理由

- ・ 頻回なフォローアップは必要だとは思わないが、学生の傾向が変わった時に、それに応じた指導方法を学べる。他の研修生とも情報交換の場になる。(17)
- ・ 臨床で困っていることもあり、他病院の指導者と意見交換してみたいと思う。(10)
- ・ 忘れることもあるし、新しい知識もまた学びたい。(8)
- ・ 長期間になると大変ですが、数日ならいいと思います。
- ・ 時間が経つと忘れてしまう。知識の再確認とモチベーションを上げる為にあっても良い。
- ・ 学びをどう生かせたかが重要だと思う。
- ・ 効果的な実習指導ができるようeラーニングを活用するなどしてスキルアップしていく必要がある。
- ・ 常に研修会をすることで、参加した方々はよき即戦力になっているのでよいと思います。
- ・ 短時間であれば行ってもいいと思う。実際に指導した時の症例を話し合うとか。
- ・ フォローアップ研修をやるとよいと思うが現状は厳しい

「不要」の理由

- ・研修で知り合えた仲間と連絡取り合い、情報共有できているから。(4)
- ・研修会に参加するのが業務上難しい。(4)
- ・基礎を学んだので、あとは自分達の病院では何ができるかを考え、実行していけばいい。(3)
- ・修了者よりまだ講習を受けていない方への研修会を開いて実習指導者の育成をしてほしい。(2)
- ・講習会での学びを活かし、教員とも連携をとり、実習は円滑に行われているため。
- ・内容に大きな変化がなければ、必要ないと考えたため。
- ・プレッシャーになると思う。
- ・指導案など受講者全員が現在も活用しているわけではない為。フォローアップするのであれば希望者のみで良い。
- ・フォローアップしたところで現場では活用しきれない。

養成所及び看護系大学、高等学校専攻科の実習指導の課題

養成所

- ・実習期間が少ないように感じる。(2)
- ・通信制学校は見学実習だが、患者からの同意書がないため、実習の範囲が分からない。
- ・学生がどこまで学んでいるか、どういう学生かもっと情報が欲しい。どこまで見学で、どこから1人で実施していいなど曖昧な所がある。
- ・学生が過密な実習スケジュールなので心身への負担を軽減したい。
- ・教育の人員不足
- ・個々での問題ではないと思うが、今後通信制の経験年数が5年に決定し、さらに3年まで拡大するとの情報があり、准看護師養成所でのカリキュラムの見直しが必要だと思う。現カリキュラムは時代にそぐわないと思う。法律上は医師、看護師の指示のもとでになっているが、実際は看護師と同様の仕事をしていることを考慮すると現在のカリキュラムでは不足があると考えます。8月の添削指導者会議で、担当教員との議題となりました。実際訪問看護ステーションで准看護師も勤務しているし、アセスメント能力等、十分とは言えないのではないかと。准看護師養成所での在宅看護論が、カリキュラムに含まれていないのは今の時代にそぐわないと思う。
- ・学生の勉強不足。
- ・教員が不足なのか、実習時間その場にはいないことがある。指導者、学生ともに教員にはいてほしいと思う。
- ・マネジメント力の不足。

看護系大学

- ・シフト関係で実習担当者がほぼ実習指導に入れられないため、日勤の担当スタッフに依頼しているが、なかなか情報が入ってこないことがある。(2)
- ・コミュニケーション能力が低い学生が多い。(2)
- ・事前学習の不足(2)
- ・学内実習を設けている大学があり、臨床の場での実習時間が少ないように感じる。
- ・実習指導者に対して要望があれば聞きたい。自分達の指導がこれで良いのか迷っている人もいるため、教員と振り返りをする機会があれば良い。
- ・様々な患者情報の中から、看護問題点を捉え、計画立案する過程で、学校の先生の目を通してはいるはずであるが、論点がずれているものを持ってくることが多い学校がある。先生自体の研修も必要ではないか？
- ・4年制大学でも学校によってレベルに差があり、指導の仕方が変わるため難しい。
- ・教育過程が違い、実習指導内容がこれで良いのか悩む。
- ・通常の業務が忙しすぎて、日によって指導担当が変わると指導内容の統一が難しい。学内での演習が少なすぎ。
- ・私の勤務している病院では看護系大学の受け入れがほとんどですが、ここ2・3年でこのナースを学生担当にしないでほしい等の要望が多く聞かれるようになった。勤務的にも指導的にも負担が大きくなり、疲弊してうまく指導につながらない等、悪循環になっている気がする。
- ・実習や就職に対する積極性

高等学校専攻科5年課程

- ・ 教養・考える力がやや不足しているように見えます。
- ・ カンファレンスを学生と教員だけで行うため、どのような指導を受けているか把握しきれない。
- ・ スタッフとの関わりについては落ち着いて臨んでいる学生が多い気がする。
- ・ 年齢のせい、元気はいいが、基本的な生活作業において、紐を結べない、廊下の真ん中を横3列でゆっくり歩くなど細かな看護以外の指導、水・湯を出しっぱなしにしながら作業する、患者のティッシュを勝手に使うなど書ききれないほどの指導が必要であり、実習以前のレベルから指導するのが大変である。
- ・ 看護問題を見つけられないことが多く、助言するが、自分で考えることが少ないように思う。4年制大学より大分レベルを下げた指導が必要であるため、指導の仕方に工夫が必要。
- ・ 事前学習の不足

今後の講習会への希望・意見

- ・ 講習会に参加して、大変勉強になったし、意識が大きく変化した。講習会は隔年でもいいので続けていくべき。(4)
- ・ 現場に活かせることが多いので、他のスタッフにも勧めたいと思っています。講習会の継続と以前修了している参加者のフォローアップを希望します。修了していても、こういう時どうすればいいか迷うこともあるし、意見交換できる場になると思います。(参加するのに勤務の調整など難しと思いますが…)私は参加してとても良かったと思います。
- ・ 県内の色々な科で働く人が参加するので、それぞれの施設の情報共有できるような時間を増やす(事例、グループワークなど)のはどうでしょうか？
- ・ 間違いなくこの研修に参加したことで知識ばかりでなく、看護師としてレベルアップに役立つことは間違いありません。受講者は減少しているかもしれませんが、講習会は続けてほしいです。
- ・ 「教育及び看護に関する項目」はeラーニングを活用してほしい。実習指導に関する科目やカンファレンスに関する演習や講義はグループワークを活用して今後も実施して頂きたい。
- ・ 実習指導者講習でどのような学びができるか、できたか、新聞・会報のような形でいいので、各病院に配信してもらえると、現場スタッフにも講習会が伝わり、参加につながるのではないかな。私の場合、講習会を知らず、上司命令のような形での参加だった。講習会を私のように知らないスタッフも多いと思う。
- ・ とても自分の考えが変わり、とても勉強になる40日間でした。今後の講習会への希望としては、10日間位のリーダーシップや中堅としての心構え的なのもあったらいいなと思います。ファースト研修も参加者がとても限られてしまうので…。
- ・ 講習会を修了して、学生指導ばかりでなく、新人や後輩の人材育成、子育てにまで役に立つ内容であった。数年経過した現在も、学びを実践に生かしている。講習会を受講して本当に良かったと思っている。
- ・ 実習を受け入れてもらっている学校側の要望は講習会でできたが、逆に指導に困っている内容を直接教員に伝える場があってもいいと思う。
- ・ 長期になる研修は可能なら時期をずらしてほしい。
- ・ 指導案は現場では作成している時間がないので、指導案の作成は講習の時間を減らしてもいいと思う。養成所、大学、高校専攻科では実習の内容や基礎知識が異なるのでどの学校がどのような学習をしているかを知りたい
- ・ 講習会の開催場所が各地でやれば良いと思う。近い方が参加する人が増えるのではないかな。
- ・ 交通面で大変でしたが内容は充実しており学びある時間でした。考え方も対応も変わり、参加して良かったです。何より他病院の方と親しく40日間関わり互いの話をするのも私たち自身のストレス発散となり、これからの学生や新人への対応を見直す機会となりました。とても楽しかったので続いてほしいと思うました参加したい。

- ・ 病院スタッフが学習していくことは大事ではあるが、教員の研修も必要なのではないか。研修の中でお互いの思いを話し合える場があってもいいのではないか。
- ・ 実習指導者研修で各地の看護師が集まり職場の意見交換をしたり、グループワークではいろんな発想などあり、こういう場はとても大切だと思った。
- ・ 期間が長すぎる。全て平日に設定してほしい。自部署では平日のみ出張扱いで土曜日は週休を使われた。
- ・ 実習指導案作成以外の事が役に立っている。指導案は病棟でも使用する機会がありません。(各学校で作成してくるため)時間をもう少し短縮するか1~2日間の研修にすれば参加者は増えると思う。
- ・ 全体的に重複している内容の講義も多かったと感じたので見直す必要があると思った。
- ・ 大変参考になる講習で、他院の人とも情報交換できるので続けてほしいと思います。看護師不足なので長期間の研修というのが参加させにくいと思います。
- ・ 学生(青年期)について知ることができ、自分の今までの学生への接し方について考えることができました。実際には業務と並行しての指導になるので、どのような対策をすべきかなど、具体的にどうすればよいのかなど勉強したいです。